

問6 活動を長続きさせる方法がありますか？

答 活動が長続きし、活発な活動を行っている団体の例をみると、

- 無理のない手段・方法で実施し、強制はしない
- 活動の目的、内容などについては住民相互で意思統一を行う
- 規約、活動重点、活動計画などを定めている
- 多くの住民が参加できる活動内容を設定する
- リーダーの安全安心まちづくり活動の知識が豊富で、積極的である
- 拠点を立てて活動しやすい環境づくりを行う
- 関係機関・団体と緊密な連携を図る

といったことが考えられます。

問7 安全安心まちづくり活動団体への参加者の募集方法がありますか？

答 安全安心まちづくり活動団体の構成員は、自治会など地域住民の方のほか防犯関係者、子どもの保護者、警察官OB、商店主、学生、武道家、愛犬家などさまざまです。

活動しようとする時間、内容や参加を求める対象などに応じて、関係する行政機関の発行するパンフレット、チラシや自治会の回覧板を活用する方法や、幅広く団体の活動を紹介するパンフレット、チラシやホームページを活用した募集などが考えられます。

問8 安全安心まちづくり活動団体の活動拠点は必要ですか？

答 活動拠点があれば、自主防犯活動などを行う上での集合場所、会議や活動準備の場所となり、構成員が集まりやすく活動が促進されます。また、団体の活動が認知されやすく、地域住民の協力や活動への参加が期待されるほか、地域住民や警察官の立ち寄りにより、防犯に関する意見交換の場所として活用できます。

活動拠点としては、自治会集会所、商店街の空き店舗、公民館、消防団の拠点などが考えられます。

問9 リーダーとして防犯活動の研修を受けたいのですが？

答 警察などでは、安全安心まちづくり活動団体等の要望により、研修会を開催したり、担当者を研修会や安全安心まちづくり活動へ派遣しています。最寄りの警察署、市町村又は各地区地域安全協（議）会などへお問い合わせください。

問10 活動中に負傷した場合の補償制度がありますか？

答 一般的には「ボランティア保険」に加入している団体が多くあります。

「ボランティア保険」は活動中のさまざまな事故によるボランティア活動者の傷害や賠償責任などについて補償するものですが、保険商品により補償内容、契約条件が異なりますので、各保険会社等へお問い合わせください。